

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792800054		
法人名	(株)コスモメディカルサポート		
事業所名	グループホーム星の郷みらい つつじ		
所在地	福島県西白河郡西郷村大字米字中山前157		
自己評価作成日	平成26年7月21日	評価結果市町村受理日	平成26年11月19日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成26年9月19日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一日を自分のペースで、のんびりと過ごして頂いています。手伝いや散歩、工作や写経、テレビや新聞など、それぞれが好きな事を行っています。また入所前の関係を断ち切らず、家族や友人が気軽に来て話しができる雰囲気作りに努めています。外出や外泊なども積極的に支援することで、利用者の表情が明るくなります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員会議などで理念の共有を行い、その趣旨にそってサービスを提供するという方針で統一しています。できるだけ地域の方々に理解して頂けるよう地元の行事等に参加しています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動及び地域包括センターや行政主催の活動などに参加しています。事業所では年1回お祭りを開いて交流を図っています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所に相談に見えた時には、入所如何に関わらず介護の悩みなどをきいて、包括センターなどに繋いでいます。今後は介護教室や認知症サポーター養成講座などの勉強会を事業所で開きたいと考えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	利用状況や活動内容を報告し、助言や意見を頂くことでサービス向上につなげています。意見要望があった時は全職員に周知し、意識向上に努めています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	村へは事故報告や利用者の現状報告、または困難事例の相談などに出向いている。同じく包括支援センターとも協力体制にあり、連絡を取り合って、意見や助言などを頂いています。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	交代で研修に参加し、その報告を職員会議時に行い、職員全体の知識習得を図っています。日中は玄関の施錠は行わず、夜間落ち着かない方には布団に鈴をつけるなどの対応を行っています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的・精神的虐待については日ごろから会議等で話し合うようにしています。本人や家族からのクレームを例に挙げて、見過ごされがちな事例を討議し、意識向上に努めています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	自立支援事業や成年後見制度につて、マニュアルを作成し、内部研修を計画しています。必要な時には包括センターや社会福祉協議会と連携して利用者保護に努めています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所は見学・説明を経て納得頂いた上で契約締結を行い、改定事項が生じた場合には書面での説明、並びに直接面接して了解頂けるように努めています。同様に解約時も説明を行い、必要があれば他事業所へ引き継いでいきます。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年2回は全家族に行事参加を呼び掛け、個別には誕生会への参加や外食の同行をお願いしています。来所の都度、意見要望をお聞きし、サービス向上に努めています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営に関する意見等は日頃から聞く姿勢で居り、会議でも取り上げています。内容によっては管理者が検討事項として法人側に上げています。改善事例として一部就業規則の改定が行われました。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事評価は賞与や手当に反映され、昇給は毎年実施、賞与は年2回支給されています。今後は定期的に個別面接の機会を設けて、職場環境や給与、やりがいなどを聞き取って雇用条件改善に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は職員の経験に応じて外部研修会への参加を働き掛け、資格取得希望者には便宜を図っています。また法人内の職員移動によって技術向上も図っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会の研修には積極的に参加し、同業者との情報交換に役立てています。研修で学んだことを業務改善やサービス向上に活かすよう努めています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来る限り本人との面談の機会を設け、初期の段階で不安が取り除かれるよう配慮しています。入所前の担当ケアマネや相談員と連携して、利用者との信頼関係構築に役立てています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションの機会を多く持ち、家族の気持ちに寄り添ながら、いつでも気軽に相談できるような環境作りを行います。ホームでは担当職員を決め、不安や悩みなどを言い易い環境作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	まずグループホームや地域密着の特徴を分かって頂き、相談者にとってどんなサービスが最も適切なのか納得頂けるように話し合っています。必要な時は他事業所へ紹介、連絡を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できること、残っている機能を見極め、職員が全てを介護するのではなく、共に行うことを前提に生活し、助けあう関係作りを行います。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	変化する体調や要望を随時家族に報告し、必要な時には来所を促したり、支援方法を検討したりと、本人と家族の絆を大切にしながら対応を行います。また誕生日や行事に参加して頂き、楽しい時間を共有しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの食堂や美容室に出掛けたり、友人宅訪問に同行したりして、以前と変わらぬ環境作りに努めています。また外泊が本人の生きがいとなっている場合は積極的に支援しています。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者個々の性格、体調、人間関係を把握し、状況に合わせた対応を行います。席替えやレクリエーションの声掛けを利用者同士の関係が良好になるように働きかけます。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去されても行事等の案内を出し、参加を呼び掛けています。必要に応じて本人、家族へ情報を提供し相談支援に努めています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の態度や状況を良く観察し、本人の望む暮らし方ができているか、日頃から職員間で話し合っています。様子が変化した時は本人の話を十分に聞き、家族と協力してサービス内容の検討や変更を行います。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員一人一人が日頃から話を良く聞き、生活歴や暮らし方の理解に努めます。家族や知人らの面会時には在宅での様子を伺って本人理解の一助としています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族からの情報をもとに、有する力がどの程度なのか予め把握し、今現在の心身状態に合致しているかどうか見極めます。その上で意欲を引き出す関わりを工夫し、残存機能が活かされるように支援します。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期会議で評価を行い、家族の意向を交えながら計画を作成します。必要な時は(看護師、ケアマネ、整体師等)と連携を図り、意見を聞きながら現状に即した計画になるよう努めています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	当日の担当者がケース記録をつけ、変化や気づきはミーティング等で話し合っています。緊急時対応なども必ず記録に残します。改善が求められる時は会議において検討し、計画の見直しを行います。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望により歯科医や協力医の往診、訪問リハビリや理容などの地域資源をその都度活用しています。また積極的にボランティアを受け入れ、余暇活動の充実を図っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの店に買い物に出かけて支援を受けたり、近隣の食堂や美容室に行った際は地域の方々と交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の希望があれば協力医が往診で対応し、検査などは外来受診しています。協力医には日頃から利用者の健康維持と急変時対応などで指導を受け、事業所と連携しています。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	関連事業所の看護師と連携しており、日頃から利用者の健康状態について情報を共有しています。夜間はオンコール体制をとり、看護師の判断のもと、協力医の指示を仰いでいます。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には病院側に情報提供し、確実な治療が受けられるように支援します。入院中は病院を訪問して経過や退院の時期について話し合っています。日頃から相談員と連携して、入所希望者の紹介等を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には重度化した場合や終末期の意向を早めに確認していますが、協力医とも十分話し合った上で結論を導きます。事業所では終末期統一したケアを提供する為に関係機関と連携し、研鑽を積むように努めています。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員が普通救命講習を受けたり、マニュアルを作成して内部で学ぶ機会を作っています。今後も講習会受講は継続しますが、事業所の行事として救命の講習会を開くことを計画しています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年1回の消防署立ち合いの避難訓練を行い、月1回は隣接事業所合同の訓練も行っています。近隣住民や運営推進会議委員にも、災害時の援助・協力をお願いしています。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時のノックや声掛けを行い、排泄介助時はプライバシーの保護に努めています。日頃から個人の尊厳を重視した態度で接するように指導していますが、職員間でばらつきがある時は随時注意喚起していきます。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	担当者中心にコミュニケーションを密にとり、常に現状把握に努めます。生活の中では利用者が自己決定できるような雰囲気作りを行い、意欲を引き出しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、その人のペースを大事にし、状況に応じて食事や入浴時間を決め、就寝や起床時間なども臨機応変に変えられるように支援します。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗濯した清潔な服を準備し、自分で衣類を選んでもらいます。身体整容もできる場所には行って頂き、手の届かない部分を支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	調理の下ごしらえを手伝って頂き、食前口腔体操を行います。食事中は職員も同じテーブルについて食事を摂り、楽しい話題を提供します。全員が終了するまでゆっくりと過ごしています。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	法人内でカロリー計算や栄養指導を受けて、献立に反映させています。食事や水分量のチェック、体重増加や血糖値変化にも配慮しています。インスリン注射から内服薬に切り替わった方が1名おります。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後のうがいや入れ歯掃除の介助、口臭のある方には舌苔ブラッシングを行っています。状況に応じて入れ歯の定期消毒やスポンジブラシでのケアも行っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握してトイレ誘導に活かしています。頻尿の方には少しの間我慢する声掛けを行い、夜間はポータブルを設置して見守り、一部分を介助しています。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便パターンを掴み、食べ物や飲み物、内服薬や補助食品などで調整を図っています。また、腸の運動になるようなマッサージや自分でできる体操なども働き掛けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴剤や季節の果物などを利用して楽しむ工夫をしています。曜日や時間を固定しないで希望がある時は優先するようにしています。時間中はゆったりと楽しい会話をしよう心掛けています。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々人の状況にあった休息や睡眠を摂って頂くように配慮しています。就寝前は穏やかな雰囲気作りをし、眠くなるまで職員と話したり、温かい飲み物を提供したりしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルして誰でも確認ができる状態にし、薬のセットや内服介助のチェックは2人以上が行ってミスの無いように工夫しています。薬の変更は申し送りノートに記入し全員が周知しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個人の能力や意欲に応じて、掃除や洗濯などを手伝って頂き、誰でも参加できるようなレクリエーションの内容を工夫して実践しています。散歩、外出、ドライブなども随時取り入れています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月1回の外出や、季節に合わせた行楽やドライブを企画しています。個人的な要望があった時、例えば温泉入りや墓掃除、選挙、買い物などを状況に応じて家族と行ったり、職員が付き添ったりしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を家族より預かり事業所が管理、必要に応じて支払いを代行しています。1か月毎に収支を報告し了解を頂いています。自己管理が可能な方は少額を所持していますが使用時は見守っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人が望む場合は電話を掛ける介助を行い、家族や知人からの電話取次にも応じています。手紙を頂いた時は職員が支援して返信しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の壁面飾りを作成して楽しみのある共用空間を作り、ホールや中庭に花や観葉植物を置いて管理も手伝ってもらいます。床暖やエアコンで快適な温度を保ち、空気清浄器で風邪予防も図っています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール脇に畳部屋があり余暇活動や昼寝ができます。食堂椅子の他にソファや長椅子もあり好きな場所でくつろげます。中庭や畑の前にも椅子を置いて休憩できるスペースがあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている(小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている	各利用者は馴染みの家具やこだわりの物を持ち込んで入所されていますが、状況に応じて配置換えや居室移動を行うことがあります。変更が必要な時は、本人と家族に相談し、了承を得てから行っています。ベッドが危険な場合は床にマットを敷いて和室のように使って頂き、在宅での生活環境に近い形でサービスを提供しています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	迷わないように居室前に表札やマスコットなどの目印を飾っています。テーブルにも名前をつけ、座布団の色を変えて自分の場所を分かり易くしています。		